

平成22年度 学校関係者評価書②

評価項目	本年度の活動と指標	学校関係者評価
人権教育	① シラバスを活用して道徳指導を見直し、授業時間の確保を図る。 ② 鈴峰中学校区内の学校が連携し、6年生全員参加の人権フォーラムを開催する。	●6年生全員参加の人権フォーラムは、ぜひ来年度も続けてください。他の学校の子たちとも顔見知りになり、生徒会役員さんのがんばりに感心していました。授業参観がもう少しゆっくりできるとよかったです。
進路指導	① 3年間を見通した進路指導計画を実施する。	●生徒が中学校卒業時点でどうするか、目標をどう指導するかが進路指導である。
生徒指導	① 学校や保護者、地域が連携して、あいさつ運動を実施する。 ② 自転車による交通事故を減少させる。	●小学校でも自転車の乗り方の指導を徹底していきたいと思います。
特別支援教育	① 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」作成を推進し、支援が必要な子どもへの具体的な方法を探る。 ② 教育研究所・子ども家庭支援室・すくすくルーム等の連携を図り、途切れのない支援を充実する。	●連携シートを作成し、前担任が中学校の授業参観に行ったり、中学校の先生に来ていただいて実際に子どもの様子を見て話をすることが大事だと思います。
開かれた学校づくり	① 学校評議員会、学校関係者評価委員会を年3回開催し学校自己評価や学校経営品質向上活動を推進する。 ② 学校だより・学校ホームページ等を通して、保護者や地域に情報を発信する。 ③ 学校支援地域本部事業と協働して早寝・早起き・朝ごはん運動に取り組む。 ④ 学習支援ボランティア・特別支援教育・生徒指導・英語活動・ラジオ体操・学校行事等で小中連携を深める。	●学校からの情報発信は進んでいるが、一方通行になっていることが多い。発信している情報に対する反応を得る仕組みがほしい。 ●ホームページ、メール配信等ITで便利になってきたが、手作りのアナログ的なものも必要である。 ●新聞の意見欄に通知表ぐらいパソコンではなく手書きにしてはという投書があり、先生の気持ちを伝えるには必要ではないか。 ●学校支援地域本部事業の鈴峰中校区は、連携が一番進んでいる校区だと思います。事業が終わっても続けられるよう鈴峰中学校がリードして行ってください。